

ぶらりびと



作曲・編曲家

高野康弘さん

音楽は「記憶」と結びついている！

私は音楽を生業にしています。

掛川の高校を卒業して上京すること
と早30年。以来、「生き馬の目を
抜く」と、呼ばれる場所、なん
とかかんとか、這々の体で、それ
でも過ごしてまいりました。

なおかつ、その中でも、編曲家な
どという、普通に生活していたら
見ることも聞くこともなく一生を
過ごすような、特殊な仕事に従事
しています。

というようなわけで、昨今流行
のダイバーシティー（多様性）と
いう考え方を省みて、「これは珍
種ではないか」と行政の皆様、
取り上げていただき、今回掛川の

応援大使の任を拝することになり
ました。

私の実力で、どこまでお役に立
てるか、不安ではございますが、
良きご縁をいただいで、せっかく
の機会でございますので、音楽に
ついて少々お話しさせていただきます
たいと思います。

だいたいそもそも、音楽など、
特に生活必需品なわけでもなく、
無ければ無いで、生きるのになん
の不都合もない：そんな風に考え
られてきた歴史もございます。
まあ、いわゆる「への役にも立た
ない」というやつですね。

聞いたからとて、お腹が膨れる
わけでもない、金が貯まるわ
けでもない。

そんなものに、うつつを抜かす
のは時間の無駄である。と。

こんなこと言ったらなんです
が、従事する我々だって、実は、少し、
そんな風に考えている節もあつた
かもしれません。

ところがですね、最近の色々な、
研究から、実は音楽の少し不思議
な性質というものが脚光をあびる
ようになってまいりました。

それは、音楽が私たちの、「記
憶」と、深く深く結びついている
という事実です。

文化芸術に携わる方々にお話を伺い、
掛川市の文化振興のヒントをいただくこのシリーズ。

第28回は、作曲・編曲家の

高野康弘さんにお話を伺いました。